



LUFTHANSA GROUP

2019 年 6 月 17 日

報道関係各位

ルフトハンザドイツ航空

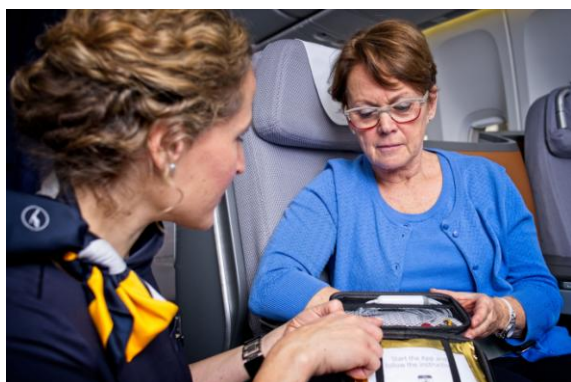
高度 1 万メートルで心電図検査が可能に: ルフトハンザ、長距離便の機内に遠隔医療を導入

- モバイル心電図システムが、ルフトハンザのすべての長距離フライトにおける急病人への対応を改善
- 医学的緊急事態に関する運航乗務員の意思決定を支援
- 加えて、ルフトハンザのフライトで新たに医療者の旅行同伴サービスの予約が可能に

ルフトハンザは、世界の航空会社に先駆けて、すべての長距離路線機材にモバイル心電図システム「CardioSecur」を搭載しました。このコンパクトで操作しやすいシステムは、機内での医学的緊急事態において、心臓病の専門知識を持たない客室乗務員が、乗客の心電図を記録し、その測定結果を地上の医療ホットラインに直接送信することを可能にします。このシステムは 2018 年にまず A380 型機でテストされており、今後はルフトハンザのすべての長距離路線機材における医学的緊急事態で利用することができます。

ルフトハンザ メディカル サービスの心臓専門医であるスヴェン＝カルステン・ペータース博士は、このシステムの利点を次のように説明しています。「お客様の健康は私たちにとって極めて重要です。特に機内での体調不良の際に、ルフトハンザに対応を任せられることを知りたいと思います。機内で直接測定された安静時心電図の結果は、医学的緊急事態において、地上での治療のために飛行機を緊急着陸させる必要があるかどうかを決定するためのより適切な判断基準となります。」

機内における医療インシデントの最も一般的な原因は心血管疾患です。これまでは、フライトに医師が搭乗していた場合、次善の対応として、彼らが除細動器を使用することにより状況を見極めることができました。しかしながら、除細動器から得られる結果は、心電図に比肩するものではありません。





モバイル心電図システムによる遠隔医療を開始

新たなモバイル心電図システムは、「CardioSecur」の名称で Personal MedSystems GmbH が開発・販売を手がけています。このシステムは、客室乗務員のキャビン・モバイル・デバイス (iPad mini) 用のアプリと、小さな袋に収められた心電図ケーブルおよび 4 つの電極で構成されており、わずか 50 グラムのコンパクトな機器として、省スペース・軽量を実現しています。乗客が心臓の異常を訴えた場合、システムはいくつかの手短なステップで心電図を記録します。まず、客室乗務員はキャビン・モバイル・デバイスを FlyNet WiFi 経由でインターネット接続し、アプリを起動します。次に、4 つの電極を心電図ケーブルに接続し、乗客の上半身に装着します。すると、アプリによって 12 誘導心電図が記録されます。患者の年齢、体重、性別、血圧、酸素飽和度等は手動で記録します。

FlyNet 経由で地上の医師に高速かつ正確にデータを転送

このデータは、アプリから、ルフトハンザのパートナーであるインターナショナル SOS (ISOS) の医療ホットラインに転送されます。ISOS は、パイロットおよびパーサーからの医療上の問い合わせに 24 時間・年中無休体制で対応しています。ISOS は、収集されたデータに基づいて心電図を解析し、運航乗務員に電話で助言を行います。これを踏まえたうえで、運航乗務員は飛行機を緊急着陸させる必要があるかどうかについての最終的な決定を下します。乗客の中に医師がいる場合、彼らがアプリの専門家モードを使用して心臓の活動を監視することもできます。

既存の「Doctor on Board (機内ドクター)」プログラムの下で、客室乗務員は、搭乗している医師とその専門分野を迅速に識別することができます。このプログラムはオーストリア航空、ルフトハンザおよび SWISS によって提供されており、現在、医学的緊急事態の発生時に支援を提供することが可能な医師として、あらゆる専門分野から 11,000 人が参加しています。この取り組みにより、規制要件を上回る充実した救急キットがその他の用品とともに用意されています。乗務員もまた、応急処置の訓練を毎年受け、緊急事態への準備を十分に整えています。

加えて、新たな医療者の旅行同伴サービスを提供

もう 1 つの新たな特色として、ルフトハンザは、メディカルトラベル コンパニオン社をサービスプロバイダーとする、医療者の旅行同伴サービスの提供を開始しました。お客様は、看護師、救急救命士または医師のいずれかを予約することで、フライト時間全体を通じたケアを受けることができます。ルフトハンザは欧州の航空会社として初めてこのサービスを提供します。このメディカル・コンパニオン・プログラムでは、お客様による選択が可能なさまざまなパッケージがご用意されています。お客様はそのニーズに応じて、例えば、医学的監督や創傷管理などを予約することができます。

健康・医療の分野で世界有数の航空会社の地位を維持

ルフトハンザは、その幅広い医療プロダクトのポートフォリオにより、健康・医療の分野全般において世界の航空会社をリードしています。

過去 20 年以上にわたり、ルフトハンザは民間航空会社として唯一、大陸間の集中治療搬送を提供してきました。ルフトハンザの患者搬送コンパートメント (PTC) は、国外で病気になった人の帰国や、集中治療を必要とする患者の搬送に利用することができます。このハイクテクプロダクトは一種の「空飛ぶ集中治療室」であり、最先端のテクノロジー、適格な専門家、効率的なプロセスと併せて、独立した集中治療室の快適性・安全性といった要素を同時に実現しています。

ルフトハンザではこのほか、事前予約による非集中治療患者の搬送用のストレッチャー、医療用酸素の供給、ストレスのないフライトに関するセミナー、独立したメディカルオペレーションセンター



(MOC)等のさまざまな医療関連サービスを提供しています。年中無休体制のルフトハンザ MOCでは、医療搬送を監督するとともに、空の旅の適否や医薬品の携行等に関するお客様のご質問にお答えしています。

ルフトハンザ グループ

ルフトハンザ グループは、売上規模で世界最大の航空グループで、ヨーロッパの航空業界をけん引する企業です。顧客、従業員、ステークホルダー、パートナーの皆様にとって、「最初に選ぶエアライン」になるべく、努力を続けています。安全性、品質、信頼性と革新性は、様々な企業活動を通じて重要視する最優先課題です。

ルフトハンザ グループは、ルフトハンザ ドイツ航空、スイス インターナショナル エアラインズ (SWISS)、オーストリア航空の各プレミアムブランドからなる旅客航空会社、ポイント・トゥ・ポイント型航空会社、そして関連サービス会社の 3 戦略分野で構成されています。旅客航空会社はそれぞれ、フランクフルト、ミュンヘン、チューリッヒ、ウィーンをハブ空港としています。ユーロウイングスブランドによるポイント・トゥ・ポイント型航空会社では、成長著しい個人旅行市場において、長距離、短距離路線をご提供しています。関連サービス会社は、世界の主要市場において業界をけん引しており、航空ビジネスの拡大に成功しています。

ルフトハンザ グループは、103 の国と地域の 343 都市を結んでおり、毎週 1 万 3,267 便を運航(2019 年夏期スケジュール)。2019 年 2 月時点における保有機材は 763 機で、2025 年まで新機材の納入が続く予定です。グループの従業員数は約 13.5 万人で、2018 年は 1 億 4,200 万人のお客様をお迎えし、売上高は 358 億ユーロを記録しました。

詳細情報は www.lufthansagroup.com でご覧いただけます。